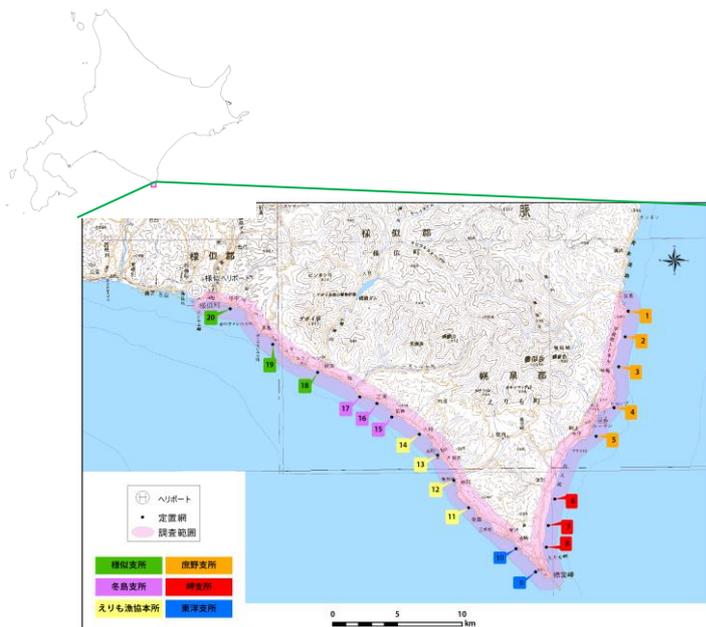


平成 26 年度えりも地域ゼニガタアザラシ対策事業

1. 調査に関する事業

1) ヘリセンサス

- ・昨年度に引き続き、有人ヘリを飛ばしてえりも漁協管内のセンサスを実施する。
- ・襟裳岬付近については、無人ヘリも活用した詳細な調査を実施する。
- ・実施時期はアザラシが最も岩礁に上陸する時期（初夏を想定）を選定する。
- ・併せて、陸上からの目視も同時に行い、ヘリセンサスとの誤差を算出することにより、個体数カウントの精度向上を図る。
- ・道東のゼニガタアザラシ生息地についてもセンサスを実施し、北海道全体でのゼニガタアザラシ生息数を算出する（推進費で実施予定）。



2) 生態モニタリング調査

捕獲あるいは死亡混獲されたゼニガタアザラシの体長、体重、皮下脂肪厚測定及び性別確認を実施する。

3) 生態解明調査

昨年度に引き続き、下記の調査を実施する。

① 生息数の推定

アザラシに電波発信機を装着することにより、上陸頻度を明らかにし、生息個体数を推定する。

② 置網への学習行動

アザラシに音波発信器を装着して、行動を解析する。また、音響カメラを設置し、アザラシがどのように定置網に侵入するかを可視化する。

③ 食性解析（定置網へ来ている個体の食性の把握）

4) 数量解析

- ・えりも地域のゼニガタアザラシ個体群の存続可能性の再評価を行うため、数量解析による絶滅確率計算の手法を検討する。
- ・これに伴い、10頭を目途に、幼獣ではないメスの個体を捕獲し、出産歴や繁殖年齢等、繁殖に関する正確な情報を調査する。

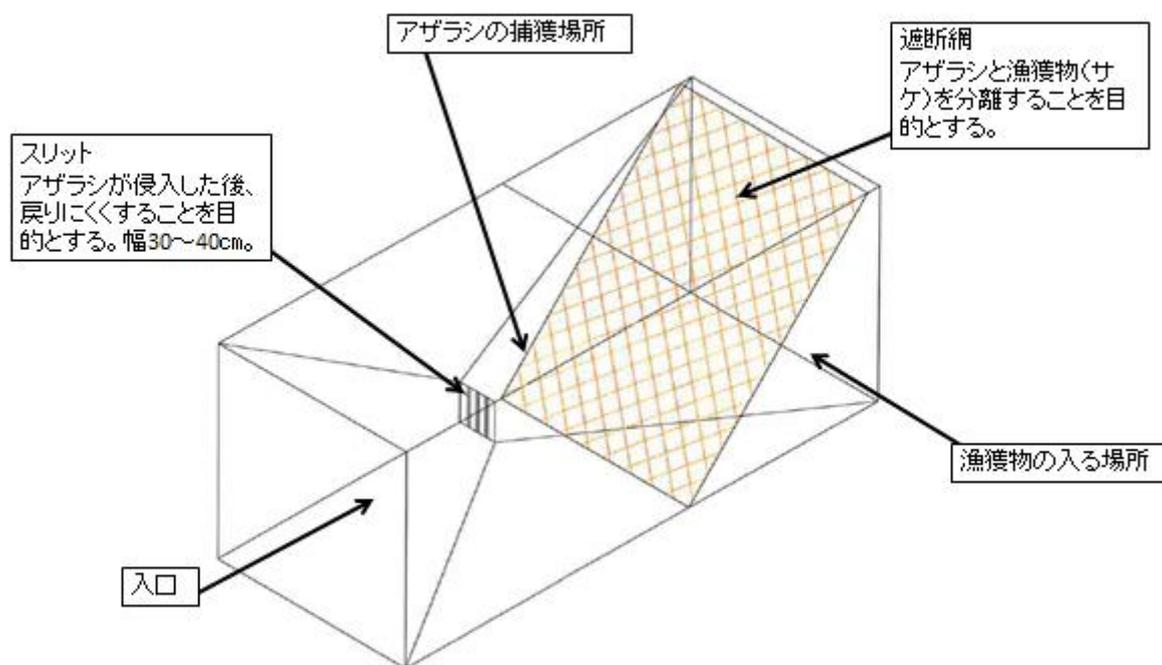
2. 被害防除に関する事業

1) 漁網の改良（推進費）

- ・侵入防止枠の改良、常習犯の成獣アザラシを生きのまま確保する等の改良を検討し、改良網の試行を行う。

別紙2

防除網構造図



2) ゼニガタアザラシの被害防除に資する網の設置

- ・漁具等に対する手法（網の改良、音波等忌避装置の改良設置等）やアザラシに対する手法（漁網等へ侵入する常習個体の確保・お仕置き等）について、可能性のある手法の実施、改良、併用等を試みるため、上記で試行した改良網を8月下旬及び11月上旬に岬地区において、それぞれ1定置で設置する。
- ・また、「数量解析」で必要な個体の確保についても、この網で行うことを試みる。

3) 忌避装置の改良

- ・装置の改良と共に、他の手法との併用（音が鳴ったときに嫌なことが起こる等を学習させるような

組み合わせの手法等)も検討する。

3. その他

1) 科学委員会(専門家会合)、協議会(検討会)の設置

- ・ 専門家によるモニタリング、調査等の結果の評価、分析、提案を実施するための科学委員会を設置する。
- ・ また、行政機関、地元関係者、専門家等による保護管理計画、事業計画の評価、検討、協議を行うため、協議会を設置する。

2) 海外事例調査

平成 26 年 5 月 29 日～6 月 3 日にスコットランドに出向いて現地調査及び事例収集を行った。